

かたつむり通信 24号

Topix

◇ 組織基盤整備の取り組み

活動を始めて18年が経ち、会員が増えて大所帯となったしながわチャイルドライン(しなチャイ)の組織基盤を整備するため、プロジェクト・チームを結成しました。現在の組織構造を見直し、内部の風通しをよくするように、それぞれの主体性、自主性を大切にしながら無駄のない組織運営を図れるようになることをめざし、2019年6月のキックオフから半年ほど、検討を重ねてきました。

【組織図・事業】では、「しなチャイの事業や事務局作業を盛り込んだ組織図」が完成しました。【内外のコミュニケーション】では、組織内のコミュニケーションについて棚卸しを行いました。また、活動に関わる様々な資料は、グループウェアに保存することを基本に運営していくことが、確認されました。対外的なところでは、現在の仕組みの中で、対応に漏れがないように工夫がされました。



ここまでで、組織基盤整備プロジェクトの前半は終了、後半は2020年1月より【資金・財政】について検討していきます。

◇ オンラインチャットの取り組み

昨今、子どもたちにとって「電話を掛ける」「電話で話す」ことがとてもハードルが高いものになってきています。また、子どもたちが電話より気軽なSNSを通じてつながりを求めて危険な目にあったり、悲惨な事件が起きています。このような状況で、チャイルドラインでは電話での相談だけでなく、オンラインチャットによる相談事業を順次拡大しています。しなチャイでも準備、対応をすすめ、オンラインチャットの支え手・受け手の養成研修を実施し、2019年7月よりオンラインの相談事業の試行を開始しました。

これからも、なるべく多くの子どもたちとつながるように、活動を拡げていきたいと思っています。

オンライン相談事業の実施に際して、昭和池田記念財団様の助成をいただき、専用のパソコンを購入しました。ありがとうございました。



◇ 日曜常設電話活動の取り組み

2018年より日曜日の電話相談事業の試行を行ってきましたが、2019年7月より月に1度、夕方の時間帯の常設として活動を始めました。さらに10月より、夜の時間帯も追加して電話を受け始めました。

日曜日には多くの電話が子どもたちからかかってきま

すが、そのうちの多くを受けきれていないのが実情です。チャイルドラインは全国70の団体で、2,000人のボランティアが子どもたちの電話を受けていますが、日曜日が手薄にならないように、活動を拡げていければと考えています。

◇ 2019 年夏のキャンペーン報告

「9月1日」は子どもたちの自殺が一番多い日です。ここ数年はメディアでもこの問題を取り上げることが多くなっていると感じます。チャイルドラインでも、夏休み明け前後の8/22から9/4までの期間是对応時間を延長(通常は16時から21時までのところ、14時から23時まで)して電話を受けるといったキャンペーンを実施しました。

しなチャイでは、通常の常設電話活動に加えて計7回(14時間)対応時間を増やしました。特に夏休みが終わり

に近づくと、学校へ行くことに不安を訴える電話が多くなりました。

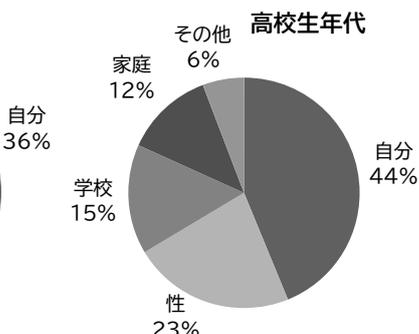
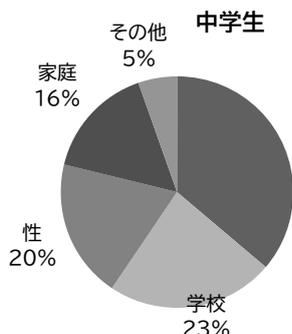
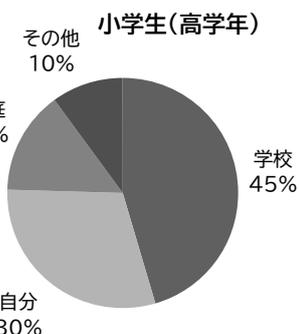
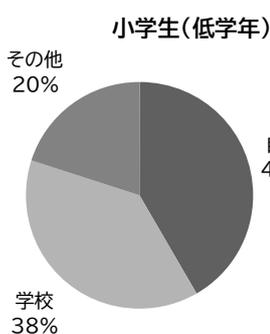
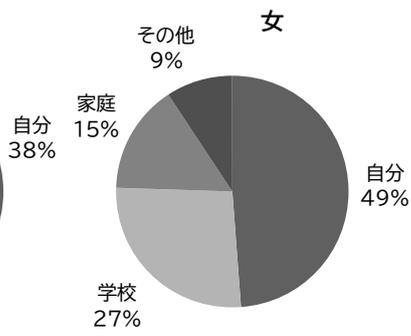
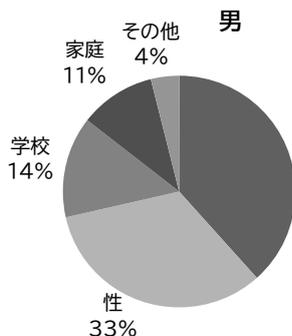
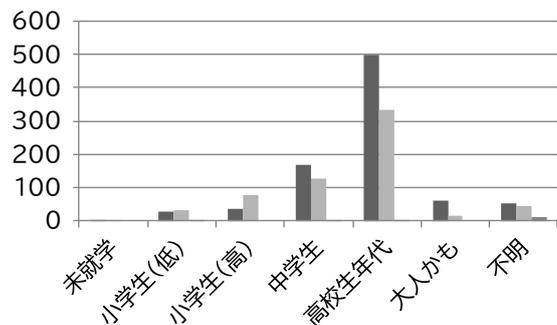
キャンペーンに合わせて、子どもたちにチャイルドラインのカードを届ける活動も行っています。私たちは、品川区をはじめとする公立学校、私立学校の子どもたちに、約60,000枚のカードを夏休み前に子どもたちの手に届くように配布しました。

しながわチャイルドライン電話概要

(集計期間:2018/12/1~2019/11/30)

受信数 4,077件 全国 167,768件
うち、会話成立 1,492件 全国 51,279件

年代×性別



- ・ 受信件数は減少傾向です。原因は、子どもがつながる相談先として支援機関の選択肢が増えたことと、子どもの電話離れ、小さな子どもは電話そのものがない、などが考えられます。件数は減っていますが、トータルの通話時間は減っておらず、横ばいです。
- ・ 属性別では、高校生年代の男子からの電話がもっとも多くなっています。
- ・ 電話の主訴は男女ともに「自分」に関するものがトップですが、男子で「性」に関するものが多くなっているのが特徴的です。
- ・ 小学生では「学校」に関する電話が多く、年齢が上がるにつれて「自分」に関するものが多くなっています。
- ・ 虐待やいじめなどの深刻な主訴の電話がある一方で、「学校でカードをもらったからかけてみた」「今日、こんな嬉しいことがあった」といった電話もかかってくる。

2019 年度に、一般の方も参加できる公開講座を 3 回開催しました。

◇ ほっとできる居場所ありますか？(2019/6/1)

生と性の話から始める、人と人とのつながり

岩室紳也さん(医師/ヘルスプロモーション推進センター代表)

今と昔では性を通したコミュニケーションが激減しており、もっと性の話をするべき。生きづらさや課題の解決には根っこ対策・リスク対策が必要であり、大切なのは環境・なるべくたくさんの居場所を作っていくこと。絆は「ほだし」とも読む(手かせ、足かせ、束縛、迷惑)、他人に適度な迷惑をかけられない人は健康になれないことなどを岩室先生に熱く語っていただきました。

チャイルドラインにも男子からの性の悩みの電話がたくさんかかってきます。この日の話はたくさんの子どもたちに届けたいと感じました。



◇ あそびの生まれる場所(2019/10/29)

子どもを「育てる」から子どもが「育つ」まちへ

西川正さん(NPO 法人ハズオン埼玉理事)



講師の西川さんは”お父さんのヤキモタイム”というイベントを埼玉で 15 年続けて延べ 5 万人を動員。焚火を囲みヤキモを食べて、地域の父親のつながりを作ってきた方です。

日本の子どもは諸外国に比べて、自尊感情がとても低いというデータがあります。この原因は何なのか？ということを中心にお話いただきました。

家族だけが大切という風潮が高まっている今、「皆の子どもを皆で育てる」ということが減ってきています。1対1で子育てをすると親たちも行き詰まりを感じることもあるし、親以外の関わりも、お金で買う傾向が強くなっています。何かあったら責任を厳しく問われるような大人ばかりが子どもと接している。その結果、子どもは自由や主導権を奪われ、「させられる」「してもらう」が増える。それでは自尊感情は育ちにくいのでは。

いい意味での無責任な大人、ビジネスではなく、損得勘定なしで子どもの声に応えることのできる存在が、今後の子育てに必要なものと言えます。

チャイルドラインも、そのひとつではないかという西川さんの言葉に、奮起させられた講演でした。

◇ 子どもたちの貧困(2019/11/19)

見えにくい貧しさをデータから読み解く

阿部彩さん(首都大学東京教授/子ども・若者ひんこん研究センターセンター長)

阿部先生は「子どもの貧困」を独自にとられたデータを解析しながら話されました。保護者の労働条件、健康状態、精神状況から子ども期からの不利の蓄積が連鎖を招きやすいことが明らかにされました。

子どもたちが「保険未加入のため医療にかかれない」「学業が理解できない」「進学が難しい」「いじめを受けやすい」といった状況に置かれているのに、国の貧困に対する対策があまりにも少ないことがわかりました。子どもの

自己肯定感は生活困難層で低いこと、大人と話す子どもの自己肯定感は話さない子どもより高いことも。

チャイルドラインメンバーのできることは、「子どもの応援団になる」「貧困の事例、現状を身の回りの人に発信して子どもの貧困の現状の理解者を増やす」「貧困の現実を公に発信、応援団を増やす」ことだと理解しました。



会員から

(おすすめ書籍)

こどもホスピス—限りある小さな命が輝く場所

田川 尚登 (著)

「子どもを“看取る”ためではなく、残された時間を、一緒に“豊かに生きる”ために」

日本ではまだ少ない「こどもホスピス」の設立のために活動する著者が、わが子を亡くした自分や患者会遺族の体験をふまえ、こどもホスピスとは何か、その必要性とともに語る。

しなチャイ会員のIさんの義理の娘さんが心を込めて取材・構成した本です。ぜひお手にとってみてください。



しながわチャイルドライン電話実績

(2019年4月～11月)

主訴	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
学校・フリースクール	22	24	21	32	28	27	27	23	204
性	15	31	29	16	26	31	28	27	203
家庭	21	11	11	20	28	16	19	23	149
自分	36	63	48	56	64	57	51	61	436
その他	9	7	6	11	5	9	7	7	61
(無言・会話不成立)	118	233	199	193	256	259	369	198	1,825
合計	221	369	314	328	407	399	501	339	2,878



ご支援ありがとうございます

(集計期間:2019/4/1～2019/10/31)

◇ 寄付金・賛助会費・助成金の総額

1,021,340 円

◇ 個人のご支援者:17名(集計期間内)

◇ ご支援いただいた団体の皆さま(集計期間内)

一般社団法人 昭和会館 立正佼成会 品川教会
株式会社東京正武堂 昭和池田記念財団
東京都共同募金会 たつのこどもクリニック
イオン株式会社 ミシュカの森

しなチャイの運営は正会員の会費、賛助会員さまの会費、寄付金、助成金によって成り立っています。

【賛助会員】年会費 1口 2,000円から何口でも

銀行名:ゆうちょ銀行

口座名義人:トクヒ)シナガワチャイルドライン

記号:00160-5/番号:664278

※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合

支店名:〇一九(ゼロイチキュウ)

預金種別:当座預金/口座番号:0664278

会費、ご寄付の用途は、子どもたちに配布するカード作成費(1枚0.65円)、公開講座の開催費などです。

発行 特定非営利活動法人 しながわチャイルドライン

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-23-24-203

Tel./Fax. 03-5462-2868

<https://www.sinagawachildline.org/>

ホームページ

Facebook

